

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	安心して声を発せられる地域づくり支援事業
資金分配団体名:	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名:	特定非営利活動法人場とつながりの研究センター
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	兵庫県
事業対象者:	生活困窮状態にあって、まわりに頼ることができずに抱え込んでいる子ども・若者とその家族

Version 3.2

日付: 2022年3月10日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>神戸市北神区及び三田市内・西宮北部で困窮世帯が多くいる4地域を主な対象として、誰にも相談できずに声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭の声を拾うことができる地域住民の「寄り添い人」を育成し、彼らの活動拠点となる学習支援・子ども食堂などの「居場所」の立ち上げや基盤強化支援を行い、既存の団体や専門家など子ども支援に携わる多職種連携のネットワークを作ることで、困っている人が安心して話せる地域住民と出会い「誰かを頼ってもいい」と感じてもらえるような経験をまちの中に多様に増やすことを目的に実施し、同時に、困りごとと出合い、専門機関につなぐためのアウトリーチ体制づくりを目指した。</p> <p>子ども・若者が一人でも安心していくことができる居場所を、裏六甲エリアにたくさん生み出すために、活動の立ち上げや運営の相談支援、資源コーディネーションなどの個別相談支援に加え、「であう場」、「まなぶ場」、「地域資源が集まる場」、「地域のつながりをつくる場」の4つを組み合わせ、さまざまな支援者が一同に介し「ゆるやかなつながり」が生まれる多様な場づくりに取り組んだ。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・困難を抱える子どもを支援するにあたって、まずは「受け皿」となる居場所をまちの中に多く増やすことに注力し、これらがつながり切磋琢磨できるような関係・ネットワークを作ることで、共同広報や共同受注など規模を活かした取り組みができ、一つ一つの居場所がエンパワメントされると考えて取り組んだ。 ・「子ども・若者の声を聴く」ことを本事業の柱として位置づけており、困窮学生支援ではスタッフが利用者一人ひとりに対して丁寧なヒアリングを行うことで、学生のリアルな声を拾うだけでなく、まちの中に信用できる大人がいるという実感を得ることが次のステップに繋がると考えて取り組んだ。この点についてはとても意義ある中身になったと考えている。また、食糧配布企画を通してさまざまな市民啓発の機会を得ることができ、子ども・若者を支援したいと考えている市民の多さに心打たれた。 ・一方で、アウトリーチ活動・子どもの現場に赴くことが、オミクロン株の流行とともにストップしてしまったこともあり、十分にできなかった。第7波に備えて、喫緊に研究に取り組みたい。 ・外国人支援については、在住外国人30人および外国人雇用をしている事業所5社の声を聴いた。自身の生活範囲が限られており、外国人同士のつながりが作れない現状があった。頼れる日本人・同胞の外国人と出合える場としての地域日本語教室の重要性を再認識した。また、働いている近隣の観光に関心を持っていることがわかるなど、彼らの関心や困りごとにより深くアプローチできたものと思われる。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	居場所の不足	学習支援や子ども食堂など、定期的に開催している子どもが立ち寄れる場を、3圏域にそれぞれ複数箇所できている	専門機関へつなぐ件数。実施拠点数、学習支援・子ども食堂の利用者数	3圏域にて合計10の居場所を作る。参加者数は各地域の困窮家庭の40%が参加できている受け皿を地域につくる。	新規居場所を8つ立ち上げ、継続支援として10団体に関与	子どもの居場所づくりに関わりたいという人は個人レベルでは多い。しかし、場所の課題があるため、既存の施設を持っている人・団体がスムーズに立ち上げられた。
子ども・学生	相談先の不足	一人暮らし・困窮学生が困ったときに相談できている。	専門機関へつなぐ件数。利用者へのアンケートおよび一人ひとりへのヒアリング		250人の学生とのつながりを作り、情報伝達ができる環境を整えた。	想定以上の学生の参加があり、一人ひとりの困りごとを丁寧にヒアリングができた結果、政策提言に活かせる素材を集めることができた。
子ども・学生	食料関連の不足	地域内で食材等が循環される体制ができている	フードドライブ実施時の協力者数	20人・社からの食材提供	32人・1事業所からの食材提供	想定以上の参加（コンテナ5箱分）があり、継続的な実施を望む声を多くいただいた。他の店舗での実施も含めて、継続実施したい。
外国人・外国にルーツを持つ人	その他	在住外国人が困ったときに相談できる場が定期的に開催されている。	自治体および社協の相談窓口へのコーディネーション件数	10人のボランティアスタッフがいる。相談件数5件。	社協担当者へは4件。別に当団体コーディネーターが7件支援に関与。	平日晩開催の地域日本語教室に加え、平日日中に参加しやすい居場所・日本語教室の場づくりが必要。
その他	事業実施上の困難	地域の居場所が頼れる居場所同士のつながりができている。	関係先への問い合わせ件数		西宮北部ネットワーク会議、三田未来地図会議で地域内のつながりができた。LINEで33人のつながり。	市域レベルでのつながりはできてきた。裏六甲としての圏域レベルでつながる可能性を深めることが次の課題。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

<p>事業実施以降に目標とする状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内4箇所において、困窮家庭50世帯の子どもや外国人のまなび・つどいの機会が継続的に保障されている。 ・子ども・若者支援に携わっている人たちが定期的に情報交換や研修が行える多職種ネットワークができ、専門機関に気軽につながることができるようになっている。 ・文化圏を共有し隣合わせにあるものの、地方自治制度のために切断された神戸市北区・三田市・西宮市北部とを、市民活動レベルで交流・接続する。
<p>考察等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3市にまたがって「子ども・若者居場所づくりネットワーク」を立ち上げ、30団体がつながった。仮に1団体20人の子ども・若者を受け入れられれば、合計約600人の子ども・若者を受入可能な環境を整えることができたと言える。 ・共同広報、共同受注など、裏六甲圏域でつながり、まとまるからこそできる可能性を深めたい。具体的には、①子ども・若者の居場所づくりに関心あるボランティアの支援・育成、②多様な専門家の参加と、知見をネットワーク内で共有（講座の実施、ケース会議の開催など）、③食材・人材の中間支援、④情報の共有（LINE公式アカウントなどの活用）、⑤地縁団体と連携し、より身近な拠点を活用しながら子ども・若者の声を集める工夫を検討などが考えられる。 ・企業との連携は必須である。食材・人材提供依頼にとどまらず、企業の強みが発揮できる機会を提案し、企業の思いを地域の居場所や子ども・若者につなげる場を作っていきたい。

V. 活動

活動	進捗	概要
①寄り添い人の育成・ネットワークづくり		
(1) 困っている人に寄り添うための講座（全3回）【学習会・交流会】	ほぼ計画通り	別紙参照
(2) 多職種連携の子ども支援ネットワーク会議の立ち上げ・運営【情報交換・交流会、全4回】	計画通り	
(3) 活動団体のスキルアップとつながりづくり【学習会】	ほぼ計画通り	
②声を集める、声が集まる機会と拠点づくり：		
(1) 立ち上げ・伴走支援： 居場所・学習支援（毎週1回開催）、子ども食堂（月に1回開催）【コンサルティング、4箇所ずつ】	計画通り	
(2) 困りごとを持つ子ども・若者、家族との出会いの場づくり：フードパントリー、プレーパークなど遊びの場の提供	計画通り	
③アウトリーチの方法論確立に向けた取り組み：		
(1) 困っている人への困りごとを集めるアウトリーチの実践		
A) コロナをきっかけに孤立する在住外国人の声を聞く取り組み	計画通り	
B) 子どもを中心としたまちづくり支援	計画通り	
(2) 受援力向上のための研究会（全4回）【学習会】	ほぼ計画通り	

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

<p>想定外のアウトカム、活動、波及効果など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【フードドライブ】 マックスバリュ西日本が会場となる店舗を無償提供いただき実施した。読売・毎日・神戸新聞が予告記事をあげたことで、想定以上の食材提供者の来訪があり（32名の参加、コンテナ5箱分の食材が提供）、加えて企業からも米の提供をいただくことができた（モリタ社） 【フードパントリー】 大学生の困窮・孤立状態を把握し、支援団体につなげた。また、神戸新聞社が大学生の現状に関心を持ち、年始特集記事として掲載したい旨を提案され、本人の同意の元、学生を3人紹介した。 【研修会】 豊中市ゲストの研修会に神戸市・西宮市・三田市の職員も参加し、子ども支援担当課の職員同士のつながりが作られた。 【西宮北部ネットワーク会議】 初回開催の声掛けをしたところ、参加者から別の支援者を紹介されるなど、予想を上回る団体を紹介された。コープ西宮北店長も参加し、支援者・支援団体・地縁団体・行政・企業のマルチセクターでの顔合わせができた。 【外国人インタビュー】 日本語力向上だけでなく、地域のことを知る（近距離観光）ことへの期待があることがわかった。
----------------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

<p>課題を取り巻く変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なにかやってみようという人は多くいる手応えを感じた。今後、地縁団体や社会福祉施設との連携や、新たな担い手の発掘の取り組みを通して、意欲する人を募り、研修し、活動へとつながる仕組みづくりに取り組みたい。 ・裏六甲圏域でひとつの「まとまり」になるからこそ活かせる取り組みを、ネットワークで実施したい。LINE公式アカウント「裏六甲子ども支援ネット」を開設し、情報の発信・共有の仕組みを整えた。また、企業・事業所や士業、福祉・心理職の専門家など多様な「地域資源」を地域の居場所等とマッチングする場をつくり、そのノウハウを共有する体制づくりも進めたい。 ・ボランティアベースの活動であるため、コロナ禍の緊急時だからこそ活動してほしい反面、自らの安全・メンバーの安心のために活動を控えざるを得なくなる状況は今回も発生してしまった。拠点活動ができないときこそ、子ども・若者の「声の聴き方」の研究を深める必要がある。具体的には、「出かけていく」アウトリーチが必要であり、子ども・若者の暮らす地域の地縁団体との連携を含め、多様な事例を集め研究を深めていきたい。 ・コロナ禍が長期化することで、体験活動が極端に少なくなり、また子どもの不登校も増えている。週1,2日程度の居場所に加えて、常設的な居場所（フリースクール含む）の立ち上げも検討したい。
------------------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
神戸市 子ども支援課	神戸市子どもの居場所づくり支援補助金採択団体（北神地区）の情報を共有し、支援にあたった
神戸市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター	ネットワーク会議へ参加いただくなど、神戸市北神区における居場所運営団体への支援を協働で実施
三田市 すくすく子育て課	ネットワーク会議へ参加いただくなど、神戸市北神区における居場所運営団体への支援を協働で実施
西宮市 子供家庭支援課	ネットワーク会議へ参加いただくなど、神戸市北神区における居場所運営団体への支援を協働で実施
マックスバリュ西日本	三田市を含む三者で協定を結び（締結式は4月を予定）フードドライブ拠点として店舗の空きスペースの活用を推進する体制を整えた
コープこうべ 第4地区本部	子ども食堂支援に加え、組合員の社会参加を促す方法を検討する場を設けることができた。
コープこうべ 西宮北店	管理期限後食材を子ども食堂へ提供したいとの意向を受け、圏域内の子ども食堂1団体をマッチングした。また、西宮北部会議に参加いただいた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	10,880,169	11,128,882	102.3%
	管理的経費	1,119,831	1,308,802	116.9%
合計		12,000,000	12,437,684	103.6%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	別紙参照
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	別紙参照
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	制作物に使用 *制作物データをすべて提供
4.報告書等	報告書を2種作成。添付ファイルで提出

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)		
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		事業開始時には最低限の規定での運営となっていたが、必要な書類の整備について理事会で検討を行った。しかし、法人規模を考えると導入することがかえって足かせになる可能性もあるため、透明性・コンプライアンスを満たすために必要な規定について検討をしている。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	年に1回の社員総会を実施。理事会はおよそ4ヶ月に1回程度開催している。
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	いいえ	法人規模においてコンプライアンス委員会を設置する必要はないと判断。一方で、職員・ボランティアなどからの内部通報などの窓口として、事務局長を除く理事会が受け、理事会にて議論をする枠組みは設けている。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	監事による監査 (会計監査は、すべての証憑書類の確認を行った)
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置 (窓口：理事長)

XII. その他

自由記述	
------	--